

世界観光会議(World Tourism Conference)2013 結果概要



登壇しプレゼンテーションする本保教授(10月21日 マレーシア・マラッカ)

10月21日から23日までの3日間、マレーシア・マラッカで開催された世界観光会議(WTC)2013(マレーシア観光文化省、マラッカ州政府、国連世界観光機関(UNWTO)共催)に、首都大学東京教授の本保芳明(UNWTO世界観光倫理委員会委員、元観光庁長官)が登壇し、プレゼンテーションを実施しました。

同会議には本保教授をはじめ、英国政府観光庁(VisitBritain)のクリストファー・ロドリゲス会長や韓国観光公社(KTO)のイ・チャム社長、米国グーグル社トラベル部門のロブ・トーレス代表、地元マレーシアのLCCエアアジアXのアズラン・オスマン・ラニCEO等世界各国の観光に関連する産学官から識者が集まり、”Global Tourism: Game Changers and Pace Setters(世界の観光：変革者とリーダー)”をテーマに、以下4つのセッションが実施され、世界の観光に関連する先進的な地域や組織の戦略や取り組み等を紹介し、観光全体の成長に活用していくためのディスカッションが行われました。

セッション1 : Beyond Mass Tourism

(マス・ツーリズムを超えて)

セッション2 : Innovative Marketing

(革新的市場戦略)

セッション3 : New Directions for Tourism Product Development

(観光商品開発の新たな方向性)

セッション4 : Boon or Bane of the Tourism Sector

(観光分野の功罪)

本保教授は、セッション1において”Tourism Business Beyond Profits(利益追求に留まらない観光ビジネス)”と題するプレゼンテーションを行い、日本の旧来型マス・

ツーリズムに対応した温泉観光地を北海道阿寒湖温泉及び大分県湯布院温泉と対比させ、地域固有の文化や景観と共生・共創し、観光を発展させることの重要性を説きました。その後、マレーシア観光文化省元事務次官のビクター・ウィー博士の司会で同セッションのコスタリカ共和国（中南米）及びブータン王国（アジア）からの登壇者とパネルディスカッションを行いました。



また、同会議会場にて本保教授は、UNWTO のゾルタン・ソモギ上級部長と会談し、本年 9 月に東京で開催された JATA 旅博（一般社団法人日本旅行業協会（JATA）主催）で UNWTO のタリブ・リファイ事務局長がプレゼンテーションしたことに謝意を表し、現在観光庁は、UNWTO との関係強化しており、その一環としてできる限り UNWTO に貢献したいとする意向を伝えました。これに対しソモギ上級部長は、UNWTO が日本政府観光庁や JATA と良好な関係を築いていることに謝意を示し、日本は国際観光において重要な役割を果たしている国であり、今後の活躍に期待したいとコメントしました。

